令和７年度 決算
山形市の財政状況

数字で見る 山形市の 1年

令和7年度の一般会計は、歳入が約1,170億9,000万円（前年度比2.5％増）、歳出が約1,142億6,600万円（同2.7％増）となりました。主な増減とあわせて、決算の状況を紹介します。

問 財政課（☎内線270）

1 実質収支は？

約**21.5億円**の**黒字**です

歳入総額から歳出総額を差し引いた額から、翌年度に繰り越すべき財源を除いた額が、「実質収支」です。
前年度の実質収支との差を示す「単年度収支」も、令和7年度は約400万円のプラスとなりました。

2 財政の健全性は？

健全な財政状況です

市の財政の健全性は、法律に基づく「健全化判断比率」などで確認します。令和7年度は、いずれも国が定める基準を下回り、実質赤字や資金不足も生じていません。

指標	（令和７年度）山形市	早期健全化基準
実質公債費比率	7.3%	25.0%
将来負担比率	79.9%	350.0%

3 市債残高は？

約**1,018億円**（一般会計）です

↓前年度より減少

一般会計の市債は、道路や学校など、長く使う施設の整備やまちづくりなど将来への投資にあてる市の借り入れです。このほか、地方交付税の肩代わりである臨時財政対策債も含みます。

市債残高の内訳（会計別）		
一般会計		1,017億7,258万円
その他会計	母子父子寡婦福祉資金貸付事業会計	6,334万円
	駐車場事業会計	8,723万円
	公設地方卸売市場事業会計	1億7,004万円
	水道事業会計	138億47万円
	公共下水道事業会計	660億1,669万円
	農業集落排水事業会計	3億2,995万円
	市立病院済生館事業会計	7億1,551万円
合　計		1,829億5,581万円

（令和7年度末現在）

4 基金残高は？

約**81億円**（一般会計）です

↑前年度より増加

年度間の財源調整や、今後の支出、災害などの不測の事態に備えて、市が積み立てているお金です。

基金残高の内訳（会計別）		
一般会計		81億1,949万円
	財政調整基金	40億192万円
	スポーツ振興基金	2億1,200万円
	減債基金	16億9,431万円
	体育施設整備基金	5億8,712万円
	地球温暖化対策等推進基金	1億859万円
	農業戦略推進基金	1億7,673万円
	公共施設等整備・総合管理基金	5億6,757万円
	その他の基金	7億9,125万円
その他会計	国民健康保険事業財政調整基金	8億901万円
	介護給付基金	19億989万円
合　計		108億5,839万円

（令和7年度末現在）

市の会計は、三つに区分されます。

一般会計

福祉・教育・道路整備など、市の基本的な行政サービスを行う会計

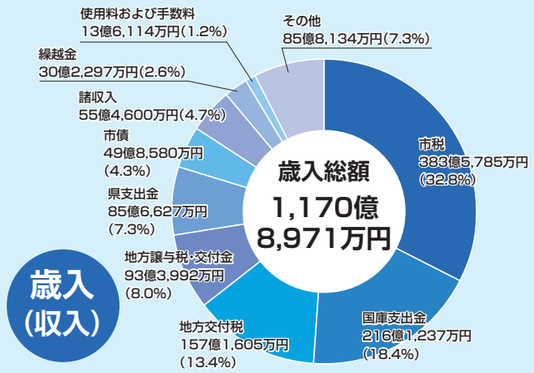
特別会計

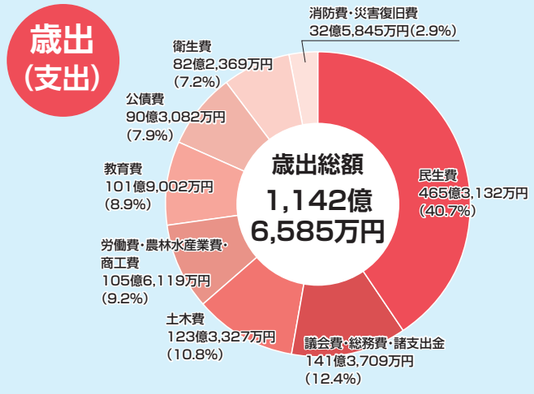
国民健康保険や介護保険など、特定の収入・支出で事業を行う会計

公営企業会計

水道・下水道・市立病院など、民間企業と同じように事業収益で運営する会計

一般会計の決算状況





前年と比べると？

⬆市税 20.4億円（5.6%）
個人市民税の定額減税の縮小や納税義務者数並びに給与所得の増加、固定資産税の新・増築分の税収の増加

⬆地方交付税 11.5億円（7.9%）
給与改定や施設管理等委託料の増加や国の補正予算に伴う臨時経済対策費の増加

⬇地方特例交付金 10.9億円（△80.5%）
個人市民税の定額減税に伴う減収を補填（ほてん）するための定額減税減収補填特例交付金の減少

前年と比べると？

⬆総務費 10.8億円（8.8%）
市民会館整備事業費や主要なバス停等整備事業費の増加

⬆教育費 8.3億円（8.9%）
出羽小学校プール・屋内運動場等改築事業費の増加

⬇土木費 4.7億円（△3.6%）
道路除排雪事業費の減少

特別会計の決算状況

会計名	歳入額（収入）	歳出額（支出）	差引額
国民健康保険事業会計	213億2,901万円	209億13万円	4億2,888万円
後期高齢者医療事業会計	46億2,643万円	44億6,587万円	1億6,056万円
介護保険事業会計	238億8,517万円	235億1,532万円	3億6,985万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業会計	5,594万円	5,594万円	0
財産区会計	726万円	679万円	47万円
駐車場事業会計	4億9,609万円	4億9,595万円	14万円
公設地方卸売市場事業会計	2億6,078万円	2億5,792万円	286万円
合　計	506億6,068万円	496億9,792万円	9億6,276万円

公営企業会計の決算状況

（消費税込）

	歳入額（収入）	歳出額（支出）	差引額
■水道事業会計			
収益的収支	64億6,364万円	57億6,887万円	6億9,477万円
資本的収支	8億1,276万円	29億5,044万円	△21億3,768万円
■公共下水道事業会計			
収益的収支	91億21万円	89億7,614万円	1億2,407万円
資本的収支	51億290万円	90億5,690万円	△39億5,400万円
■農業集落排水事業会計			
収益的収支	1億8,656万円	1億8,400万円	△256万円
資本的収支	6,213万円	1億1,073万円	△4,860万円
■市立病院済生館事業会計			
収益的収支	132億4,170万円	141億7,829万円	△9億3,659万円
資本的収支	3億8,861万円	6億5,865万円	△2億7,004万円

●収益的収支…営業面から見た収支
●資本的収支…設備など所有財産の面から見た収支
※資本的収支の不足額は、これまで蓄えた純利益などの一部により補填しています。

令和７年度 山形市が取り組んだ主なこと

「山形市発展計画2030」による新たなチャレンジのスタートの年度として、「健康医療先進都市」「文化創造都市」の2大ビジョンのもと、山形市の目指す「地域資源を活かし元気で活力のある、誰からも選ばれる持続可能なまち」の確立に向けて、さまざまな取り組みを行いました。

まちをつくる

バス待ち環境の整備



山形駅東口や市役所前のバス停に、上屋やデジタルサイネージを整備しました。バスの乗り場や到着時刻を一目で確認できるようになり、待ち時間を有効に使えるなど、バスをより便利で身近な移動手段として利用できるようになりました。

粋七エリアの街区整備を推進



「粋な町 七日町」をコンセプトに、まちを歩き、楽しみ、過ごせる、魅力ある都市空間の形成に向け、段階的に土地区画整理を進めました。

粋七の詳しい情報はこちらから
公式ウェブサイト粋七KINANA

蔵王温泉出張所を移転・建て替え



新たに山岳救助兼務隊を設置するなど、さらに災害に強く、より機能的な災害活動拠点として、市民と観光客の皆さまに安全・安心を提供できるよう、令和7年11月に蔵王温泉出張所を移転しました。

市街地南部の新駅設置に向けて検討

新たな交通結節点となる新駅について、駅や駅前広場の規模・機能など、より具体的な検討を進めました。

山寺地区で無電柱化を推進

美しい景観を形成し、冬期間の交通安全を確保するため、無電柱化工事を進めました。

中心市街地のグランドデザインの具現化

旧大沼・済生館周辺エリアが中心市街地の活性化をけん引するエリアとなるよう、市街地再開発基本構想を策定しました。

未来へつなげる行政経営

市民サービスの向上に向けたDX推進

DXの最高責任者である副市長を補佐する「CDXO補佐官」として専門知識を持つ外部人材を登用し、市民サービスの向上のため、電子申請の推進など、デジタル技術の活用を進めました。

粗大ごみの申し込みをオンライン化

粗大ごみの収集申し込みをいつでも行えるよう、24時間対応のオンライン受付とキャッシュレス決済システムを導入し、利便性の向上を図りました。



ひとを育む

新市民会館の設計着手





文化芸術の振興と中心市街地のにぎわいを創出する施設である新市民会館の基本設計が完了し、続けて実施設計に着手しました。

小中学校のタブレットを更新



学習環境の充実とICT教育の推進を図るため、市独自にタブレット端末を高性能化しました。

SUKSK生活で健康づくり



健康づくりへの意識向上や行動の変化を促すための取り組みを進めました。

帯状疱疹予防接種の接種費用を助成開始

高齢者の方などを対象に、帯状疱疹予防接種の接種料金への助成を新たに開始しました。

やまがた・マイスクール応援寄附制度を創設

卒業生や企業などの「学校を応援したい気持ち」を学校の教育活動に役立てる寄付制度を創設しました。

しごとを豊かにする

山形北インター産業団地が3月に完成



抜群の交通アクセスなど、利便性の高い立地環境を生かし、企業誘致や雇用の創出につながる新たな産業団地が完成しました。

「日本一の観光案内所」の基本計画を策定



日本一の観光案内所の整備に向け、基本構想で示した施設機能やコンセプトなどを具体化する基本計画を策定しました。

旧千歳館を活用した拠点施設整備工事に着手



旧千歳館の建物を保存・活用した観光拠点施設の整備に向け改修工事に着手するとともに、機運醸成のため「やまがた秋のハレとケまつり」を開催しました。

やまがた礎（いしずえ）奨学金の創設

県内で活躍する土木・建築系技術者の育成・定着を促進するため、新たな奨学金制度を創設しました。

さくらんぼトレーニングファームの整備

栽培農家の育成を目的とした実習場として「さくらんぼトレーニングファーム」を整備し、将来の担い手となる研修生を募集しました。